

2学期の終業式の日を迎えました。同時に令和4年も残すところ11日です。

はじめに、最近皆さんから感じたことを話します。一つ目は挨拶です。先日クラスマッチは、残念ながら1年生だけの行事となりましたが、各会場を見て回っていると、1年生の皆さんから挨拶をしてもらいました。入学当初は、先生方から挨拶をすることが多く、控えめでおとなしい印象でしたが、先日は明らかに皆さんの方からの挨拶が多かったです。2, 3年生にはまだまだ及びませんが、内面的なところも松山北高校生に成長してきたことを実感できました。

もう一つは、昨日まで実施されていた大学の出張講義についてです。はじめは参加する生徒が少なかったのですが、各担任の先生から改めて実施の目的を説明し、皆さんが理解すると、すぐに多くの生徒が参加の意思表示をしました。この反応を見て、皆さんの的確な判断力とその速さを実感しました。いいものを見極め、まず受け入れてみる素直さは、人間性の向上に大切な要素となるはずです。謙虚さと併せて、もっと大切にしてもらいたいと思います。

さて、皆さんにとって、令和4年は、または、2学期はどうでしたか。

これまで、目標を実現させるに当たって、具体的なイメージを持つことの大切さを何回か話してきました。例えば1年後、3か月後の自分の姿が具体的に想像できますか。という問いに皆さんは答えを持っていますか。目標の実現のために、どのような行動をすべきかを具体的に確認しながら進めることが重要だということです。目標設定しただけでなんとなく目標が達成できるほど現実甘いものではないことを、皆さん自身これまでの経験からでも十分理解できると思います。現実を客観的に見て、今年を振り返り、改めて修正を加えるために、明日からの冬季休業の時間をいいタイミングと思って効果的に使ってください。

次に、松山北高校としての今年はどうだったでしょうか。

約1年前、2022年が明けて、第3学期はコロナ禍の影響で大学入学共通テストの当日朝まで臨時休業となっていた中で、卒業した先輩たちは、実にたくましく、気持ち切らすことなく、あきらめない粘り強さを発揮して近年にない進路実績を収めることができました。

次に、3月に行われた高校入試では、松山北高校は、360名定員に対して509名、1.41倍の高倍率でした。県内の中学生から非常に高い支持を得ています。この現象は、2, 3年生が受験した当時も同様の傾向でした。皆さんは高倍率の難関を突破して、本校で学ぶ機会を獲得しています。皆さんにはもっと自らの潜在的な可能性を信じて、高い目標に向かって挑戦してもらいたいと期待しています。

また、松山北高校が多くの中学生に支持されていることの一つに、高いレベルで挑戦できる文武両道を実践できる環境が挙げられます。今年の県総体には、全ての運動部が出場し、そのうち3分の1以上が四国大会に出場。そして全国大会であるインターハイには、県立学校では最も多い7部55名が出場しました。県のトップを目指し、全国レベルに目標を設定している活動が本校の神髄ではないでしょうか。

文化部においても吟詠剣詩舞部が全国高等学校総合文化祭に出場し、郷土研究部は2年連続で「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト最優秀を獲得しました。美術部は吟詠剣詩舞部とともに、来年度の全国高文祭出場を決めている外、多くの文化部が、新聞、テレビなどの取材を受けるなど、いろいろな行事に参加して本校の存在感を示してくれています。

さらに、部活動以外にも本日表彰したような各種のコンクールで家庭クラブの活動を通じた地域貢献、忽那諸島を中心に環境保全につながるボランティア活動、現代の多様な価値観への理解を深めるダイバーシティプロジェクトの活動など、幅広い分野で松山北高校の生徒が活躍しており、将来皆さんが社会貢献できる人材となる土台作りが着実に、また力強く進んでいることを確信しています。今後の活躍がますます楽しみです。

4月以降、新型コロナウイルス感染症の収束は未だに見えない中であっても、一定の制限はあるものの、日常の様々な行事やイベントが行われています。松山北高校の行事等もほぼ予定どおり進めることができましたが、一つだけ、3年生が自らの努力ではどうにも解決できなかった大きな行事がありました。3年生の修学旅行です。私達も旅行会社と協議を繰り返し、実施できるよう努力したつもりでしたが、結果として中止になってしまい、3年生全員の思いや期待に応えることができませんでした。

今年の夏の甲子園大会で優勝した仙台育英高校の須江航監督は、「大人が過ごしてきた高校生活とは全く違う。青春ってすごく密なので。」とコロナ禍で皆さんの貴重な時間や体験が奪われてしまった様子を見守ってきた1人の大人として思いを込めたコメントです。

高校生にとって、修学旅行というのは、何ものにも代え難い、非常に濃密な体験ができる機会です。その時間を作ることができなかったことに対して、本当に取り返しができない結果になってしまいました。心からお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。

3年生の皆さんが、何をするにも制限があり、逆境の中でも前向きな気持ちで、懸命に歩みを進めていた姿は、称賛に値するものであると感じています。皆さんが自己実現に向かう大切な時期を迎え、未来に向かってひたむきに前に進んでもらいたいと心から願っています。

昨日、サッカーのワールドカップで優勝したアルゼンチンのスカローニ監督は、優勝インタビューで「両親はどんなときも決して諦めるな、必ず前を向いて歩み続けろと教えてくれた」と語りました。

共感した皆さんも多いと思います。このコメントを心に留めておいて欲しいと願っています。

令和5年の新年、3学期の始業式に元気でいい表情でお会いできることを祈って挨拶とします。